

【健康】

歯周病の最新治療<上> 汚れ除き骨の再生力促す 抜かずに歯を復活

2009年11月6日



非外科的骨再生療法で歯の汚れ除去を受ける患者＝東京都新宿区のカダデンタルクリニックで

歯を支える骨などが炎症を起こして溶ける歯周病。国民の約七割がかかり、歯を抜く原因の四割以上がこの病気だ。治療や予防に心がけ、いつまでも自分の歯でおいしく食事を楽しみたい。十一月八日は「いい歯の日」。最新の治療法取材した。（鈴木久美子）

歯がぐらついて天ぷらをかみ切れない、疲れがたまると歯茎が腫れずきずき痛む。重い歯周病に悩んでいた東京都内の主婦（62）は五年前、カダデンタルクリニック（東京都新宿区）で「非外科的骨再生療法」という治療を受けた。

歯周病は、歯と歯肉の間の溝（歯周ポケット）に、歯周病菌の塊である歯こうや、歯こうが石灰化した歯石がたまり、歯周組織（歯を支える歯肉・歯槽骨・歯根膜、歯のセメント質）＝イラスト＝に炎症が起こり組織が壊される感染症だ。ほっておくと同組織が歯を支えきれなくなり、歯が抜ける原因になる。

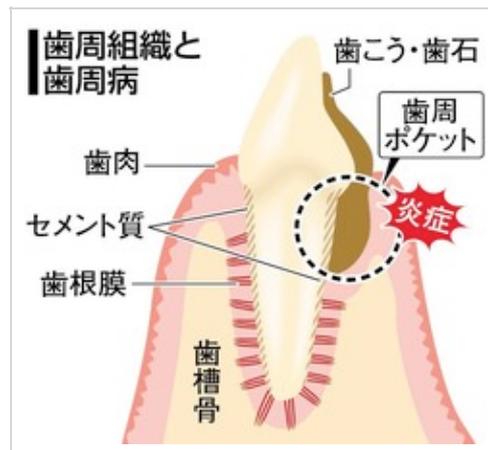
同療法は、まず歯のぐらつきを抑えるために複数の歯をワイヤで固定。その上でこれら歯の汚れを取り除き、歯根の表面を滑らかにする「ルートプレーニングケア（RPC）」を行う。同時に患者にも、毎食後と間食後、就寝前と毎日五回の歯磨きをしてもらう。

同療法のRPCは、歯周病治療に広く行われている歯の汚れ除去法とやり方は同じだが、徹底して汚れを取る点と歯根膜の再生に力点を置いている点が違う。骨の再生力を生かした治療法だ。

「歯磨きとRPCにより汚れがなくなって、歯根と密着する歯根膜がまず再生する」と同療法を開発した同クリニックの深田邦雄院長は説明する。

さらに歯を固定しているワイヤも再生力を向上させている。

「RPCを行って腫れや出血が止まったら、ワイヤを短時間外す。すると、歯周病で歯周組織の支えがなくなり、本来の位置からずれていた歯が、元に戻ろうとわずかに動く。この動き



に刺激を受けて、歯根膜の中にある間葉細胞が分化してできる骨芽細胞（歯槽骨の元）やセメント芽細胞（セメント質の元）が増殖し、歯槽骨やセメント質が再生される」と話す。

ワイヤの着脱を繰り返すことで、歯槽骨やセメント質の再生が促されるという。

歯槽骨が再生すれば歯も安定するので抜歯せずにすむ。「自分の歯を大事にして、できるだけ残してほしい」と同院長は呼びかける。

前出の主婦は以前にかかった歯科医師に、総入れ歯にするよう勧められたこともあった。だが治療開始から約二年後、歯七本で歯槽骨が再生していた。自分の歯を二十二本残すこともできた。腫れや痛みも完全に消え、食事もかんでおいしく食べられるようになったという。

治療は通常約二年かかる。費用は健康保険が適用されず全額自己負担。個々のケースで違うが、たとえば大白歯一本を含む四本の治療なら約四十万円になる。

ただ、取り組む歯科医師がまだ少ない。人工透析患者や喫煙者は治療効果が少なく、どんな症状にも有効なわけではない。歯磨きをしない人も対象外だ。治療終了後も歯磨きを続けなければ、再発の懸念があるからだ。

同療法を行っているのは、同クリニックのほか、鶴田歯科医院（愛知県岡崎市）など全国で数カ所ある。歯周病が軽症ならば、一般的な汚れ除去治療と自身の歯磨きなどでほぼ改善できる。まずは歯周病治療に取り組む最寄りの歯科医院などで状態を確認することも必要だ。

Copyright © The Chunichi Shimbun, All Rights Reserved.